

第2回 栗東市観光振興会議 会議概要

■日時：令和6年9月3日 午後1時30分～午後3時00分

■場所：栗東市役所2階 第2会議室

■出席：《委員》

築地 達郎委員（会長）、田中 由美委員（副会長/WEB参加）、岡山 光雄委員、
三木 茂委員、林 優里委員、濱田 康之委員、鶴田 泰伸委員、高野 秀樹委員、
北川寛人委員

《オブザーバー・運営組織》

一般社団法人栗東市観光協会 山口事務局長

《委託事業者》

（株）しがぎん経済文化センター

《事務局》

商工観光労政課長、商工観光労政課事務局担当

■欠席：なし

1. 開会

（商工観光労政課長）

2. 市民憲章唱和

3. あいさつ

（築地会長あいさつ 省略）

（事務局）

- ・本会議内容は原則公開。
- ・本日の傍聴者は2名。

4. 報告事項

（1）令和6年度取り組み状況について（資料1）

○事務局説明（省略）…資料に基づいて説明

【おもな意見交換】

会長：過去の取り組み内容の報告なので、特に指摘する点がなければこの内容で受

け止めておこうと思うがよろしいか。

(委員から意見が無いことを確認)

ただ、事務局との打ち合わせでも申し上げたが、今までやってきたことの継続性を見るにはこのような形式で示すのがいいと思うが、全体としてどこに力入れているのか、どういう体系になっているのかを見るには、この表ではやはりわかりにくい。引き続き表現については工夫をお願いしたい。

(2) 観光ニーズ調査のまとめについて(資料2)

○事務局説明(省略)…資料に基づいて説明

【おもな意見交換】

委員：2ページと3ページの内容の比較について。2ページ[2]で栗東市の観光消費額は29億7,594万円とあり、3ページ[4. 参考]では経済波及効果は観光消費額を含むと書いてある。栗東市の観光消費額29億7,594万円と経済波及効果28億5,600万円の合計額を観光消費額(29億7,594万円)で割ったら乗数効果1.33倍になるということか。

事務局：資料2参考資料の3ページをご覧いただきたい。前回の平成29年調査の際と同じ「経済波及効果簡易推計システム」による推計結果だが、主な点を申し上げる。日帰り客と宿泊客それぞれのデータを投入すると、まず、A観光消費額21億5,400万円という数字が出て、その後、④観光消費の経済波及効果で28億5,600万円という数字が出ている。この二つの数字から導き出される乗数が1.33倍ということだ。

会長：確認だが、経済波及効果28億5,600万円には観光消費額も含まれているということなので、委員からの質問については、資料2の2ページ[3]に出ている乗数1.33倍という数値の前提となっている計算根拠と、3ページ[4. 参考]にある日本国内と京都市の算出根拠は同じということでもいいか。

事務局：そうだ。

委員：2ページでは観光消費額29億7,594万円とあるが、参考資料の推計では21億5,400万円となっている。なぜ8億の差が出ているのか。

事務局：観光消費額は、資料2の2ページ、1人あたり観光消費額の平均に観光入込客数を掛けて算出している。一方、経済波及効果を推計する際は、日帰り客

単価 1,811 円に日帰り客数を掛け、また、宿泊客単価 6,890 円に宿泊客数を掛け、両者を足して観光消費額 21 億 5,400 万円になる。

平成 29 年の基準値を作った際、観光消費額は平均単価×入込客数で算出し、経済波及効果は日帰りと宿泊客に分けて観光消費額を算出してから経済波及効果を推計するという形にしていた。平成 29 年の際は、宿泊と日帰りの単価が低かったので大きな差は出ていなかったが、今回調査では宿泊施設が増えたこともあって宿泊客の消費単価が増えたことで、最終的に観光消費額と経済波及効果の逆転が起きた。

会長：委員の質問への直接回答ではないように思う。資料 2 の観光消費額 29 億 7,594 万円と、参考資料の観光消費額 21 億 5,400 万円の違いについての質問だと思うが、計算の仕方の問題ということだろうか。

事務局：そうだ。1 人あたりの観光消費額を全体で見るのか、日帰りと宿泊に分けてそれぞれ計算するかの違いになっている。

委員：経済波及効果は観光消費額を含んでいるとしているにもかかわらず、経済波及効果が観光消費額よりも少なくなることはあり得ないと思う。また、乗数効果が 1.33 倍となる場合の観光消費額 21 億 5,400 万円という数字が資料 2 の〔2〕では出てこないの、疑問が残る。そこを整理しないと、波及効果が無い観光消費額とは何だ、という質問を受けるのではないか。21 億なら 21 億で揃えるべきで、観光に携わっている方にとってはやればやるほど損だという結果になってしまうのではないか。

事務局：平成 29 年との比較のために同じやり方で行ったため、このような形になってしまったが、表記の仕方について再度検討したい。

会長：今の委員の指摘は非常に重要な点だと思う。資料 2 参考資料の 3 ページ目に出てくる観光消費額 21 億 5,400 万円の計算式を資料 2 に追加すれば問題は解決するように思う。資料の差し替えをするということだが、事務局としては可能か。

事務局：経済波及効果に至る計算式を表記するのか、観光消費額の数字を 21 億にするのか 29 億にするのか、検討したい。

会長：どちらにすることではなく、事実に基づいてどういう計算をするか

という論理的な説明を記載いただければいいと思う。次回以降、正確な数字を出していただきたい。

ここで大事な点は、1.33 倍という乗数効果はさほど大きくない、つまり観光産業を振興したとしても市の経済全体に対して与える影響は多くはない、この状況をどうするかという問題ではないかと思う。今後のビジョン策定の中で、この点をどう反映させていくのかということに繋がっていくと思うので、この場ではこの数字を受け止めておきたい。

5. 協議事項

(1) 第一期栗東市観光振興ビジョンの最終評価（案）について（資料3）

○事務局説明（省略）…資料に基づいて説明

【おもな意見交換】

委員：1 ページ目の下の表〔I 観光資源の魅力向上〕のNo.1「既存の祭りやイベントの魅力向上」の実施事業「りっとう秋まつり」が休止になっているが、それに対して評価がされていないと思う。他の事業は継続や検討中になっているので、休止ならその理由が必要ではないか。

会長：第1回会議の資料には無かった内容なので新たな意見をいただいた。改めて基本方針Ⅰ・Ⅱの最終評価案の方向性と文言について検討したい。最終的には我々のこの委員会の評価になる文言だ。まず、1 ページ目の〔I 観光資源の魅力の向上〕についての1 段落目、「観光入込客数については、想定数値に対して 86.5%達成度であったが、コロナ禍の影響を大きく受けることがなかった。背景には自然環境を生かした体験型観光が人気を博したことが要因の一つになっている」という評価だ。その他にも要因はあると思うが、これが重要な要因だと評価している。ぼかした言い方になっているが、「コロナの影響が比較的小さかった要因は体験型観光があったから」「自然環境を生かした体験型観光という一つの方向性が浮き彫りになった」というニュアンスだと思うが、その点は実態に即しているとしていいか。

委員：これは「もっと減る可能性があったものの、86.5%達成できたので良かった」という前提でいいか。

事務局：そのとおりだ。

委員：であれば、その点を上手に表現しないと、会長が言ったように、ぼやけたよう

な、つじつまが合っていない印象になるのではないか。

会長：あえてぼかしているというべきでは。つまり今後、次期のビジョン議論するにあたって、自然環境を生かした体験型観光により力点を置くのか置かないのかという点にも関わってくると思われるため、ここではこのような表現になっていると思う。

続けて2段落目、「一方で、観光入込客数の上位施設は道の駅となっており、本市が他の市町を訪れる際の通過地点になっていることが課題である」となっているが、これは事務局と私の議論の中で課題だと受け止めたからだが、改めてこの文言を見ると、「特徴である」と理解するのもありかなと思った。一概に、悪いこととは言えない。いかがだろうか？

委員：私は「アグリの郷栗東」の役員もやっているので、意見を言うのもあれだが、通過点ではなく、アグリの郷だけを目指してくる方も多くいると思う。

会長：その点についてエビデンスはありそうか。

委員：観光客ニーズ調査の中にそのような結果は無かっただろうか。

会長：この点は一旦ペンディングにして、改めて確認をお願いしたい。「通過点になっているのか、どうなのか」は重要な点だと思う。

続けて3段落目、「また、SNSによる観光情報発信への期待が高まる中、これまでのXやInstagramといった媒体に加えて今後は市公式LINEを活用した情報発信を行うことでより幅広い対象者に向けた発信に力を入れることが必要である」とあるが、これは最終評価というよりも今後の課題あるいはやりたいことが入っているので、ここは削除した方がいいと思う。（事務局に向けて）この部分は最終評価には対応していないという理解でいいだろうか。

事務局：はい。

会長：皆さんもそれでいいだろうか。（各委員から意見は無し）では、3段落目は削除としたい。

続いて4段落目、「第六次総合計画においては、観光に関するものとして「馬を活かしたまちづくりの推進」が位置付けられているが、具体的な取り組みが明文化できていなかったので次期ビジョンにおいては栗東市らしさを引き出した、馬に関連する施策を検討する必要がある」。これは後出しではあるが、今まで無

かった内容なので、付け加えておく必要があるだろうということで文言化したものだ。4段落目について、書き方も含めていかがだろうか。

事務局に確認だが、最終評価“案”を最終評価として確定するタイミングはいつか。

事務局：本日ご意見をいただいた中で、改めて会長と中身を詰めさせてもらった上で、次回、“案”を消せる状態でお示ししたい。

会長：次回確定するということだ。

続けて裏面の「Ⅱ 体系と体制づくり」の1段落目、「コロナ禍以降は安定的にイベントが開催できるようになり、県内外の物産展に積極的に出展を行い、本市の認知度向上に向けた啓発が行われた」。2段落目、「交通については自動車以外の移動手段もあるものの、依然として自動車での来訪者の割合が高く、かつ日帰り客が多いことから、市内での消費を促すためにも宿泊施設への誘客促進が必要であり、既存の山の施設の活用方法も含め、目指す方向を明確にしていく必要がある」。この2段落目は情報量が多いので、これは分解する必要があるかと思う。「宿泊施設への誘客促進が必要である」と「市内での消費を促すためにも」とは、本来別のことだが二つ並んで書かれているので、今後、文言の整理が必要と思われる。

委員の皆さんも気づいた点はいつでも意見を言っていたきたい。

続けて3段落目、「また、お土産品の購入について種類や購入場所について消費者からのニーズを満たしているとは言い難く、地域の経済振興を目指してそれぞれの団体の持つ強みを生かしながら、連携をはかる必要がある」。Ⅱの最終評価（案）には大きく三つの内容がある。一つ目が本市の認知度向上に向けた啓発活動、二つ目が宿泊施設への誘導、三つ目がお土産品の開発や出し方について連携を図りながら高めていく必要がある、というのが概要だ。文言についてはもう少ししっかりとмонでいこうと思うが、内容や方向性についてはどうだろうか。

委員：第一期ビジョンの最終評価ということで、前回出た意見などを踏まえてこの最終評価案を作っていただいたという認識だが、最終評価というよりは、前回意見の整理や、次期への展望みたいな内容が多い印象がある。もう少しシンプルに、例えば基本方針Ⅱの交通についての部分、「自動車以外の移動手段もあるものの」のところも、観光振興ビジョンとして「こんぜめぐりちゃんバス」の運行をしているのに…みたいな印象があって、あんまり最終評価という印象を受けなかった。

会長：言いたいことと書いてあることとの間に多少含みがあってわかりにくい、言いたいことをもうちょっと明確に書いてほしいというご意見だと思う。

委員：「連携」という言葉があちこちに出てきているが、これは第一期ビジョンで一番重視した点だ。役所にしかできない部分と民間がやるべき・やった方がいい部分をしっかりと区分けして、何が求められているか、何にどう対応するのかということは民間ベースでやった方が絶対にいいので、そういうことは市ではやらないでくださいという方向性を明確にしたはず。それを今回、連携という言葉で結果として丸めてしまっているところがあるので、事務局の中で受け継がれてないと、議論していて感じる。この点については〔Ⅱ 体系と体制づくり〕のどこかで考え方をしっかりと書き込んでおきたい。

委員：再評価のところで、できたこととできなかったこと、できなかったことはその原因と対策について、わかりやすく書いていただくほうがいい。
続けて質問だが、〔Ⅱ 体系と体制づくり〕最終評価の最後の段落で「それぞれの団体の持つ強み」とあるが、この団体は何を指しているのか。

事務局：商工事業者や観光関連の事業者など、さまざまな業種の方それぞれを各団体というイメージでこの言葉を使った。もしイメージしづらいということであれば、変更を検討したい。

会長：団体、企業、いろんなタイプがあるので、それをイメージできるような書き方を工夫してほしい。特に観光協会をここでどのように表現するのかは重要だと思う。

事務局：先ほど委員からご質問があった「道の駅などは目的地か、通過点か」という点について、今わかる範囲で回答したい。観光客ニーズ調査では「本日の主な目的地」という設問があり、栗東市内を目的地としているという回答は 75%を占めている。残り 25%の方にとって栗東市は通過点だったと思われる。ただ、道の駅など個別の観光地については分析する必要があるので、次回の会議で資料を用意したい。

会長：非常に重要な点。道の駅が強い誘引力を持っているとすれば、それをさらに高めていく方向性もありうる。

(2) 第二期栗東市観光振興ビジョンの骨子(案)について(資料4)

○事務局説明(省略)…資料に基づいて説明

【おもな意見交換】

会長 : 資料4の5ページ目。第一期ビジョンの考え方や構成はあまり触らず、具体的にどうするのかについてしっかり取り組んでいこうという考え方だと理解した。委員の皆さんはいかがだろうか。

委員 : 資料4 参考資料の6ページ、後期基本計画で「めざす姿」の見直し案が出ている。この内容を次期ビジョンの基本理念にも適用していくべきではないか。見直し案では「多様化する観光客のニーズを満たすと同時に受け入れ地域の自然と文化を未来にもつなげることができる持続可能な観光の推進」となっているが、ビジョンの基本理念には盛り込まれていない。また、「国内外に対する効果的な観光情報の発信」もビジョンの基本理念に適用してないような気がする。

会長 : 後期基本計画の「めざす姿」は見直し“案”で、まだ確定してないということではないか。

事務局 : はい。

会長 : これはどう違うのだろうか。周遊型観光ということではなく、多様なニーズの受け入れと持続可能な観光の推進というふうに言葉が変わっている。それに対して観光ビジョンの方、資料4の5ページの「目指す姿」では、「”物語”の磨き上げと再発見による、まちの誇りと観光振興をめざす」となっている。私はビジョン策定に最初から関わっているので、「まちの誇り」というのを一生懸命議論した記憶があるが、これと上位計画における文言の変更に整合性があるのかどうかという論点であると理解した。

事務局 : ビジョンの目指す姿と基本理念の中には、後期基本計画の見直し案の内容がうまく織り込めていないというご指摘はそのとおりなので、可能であれば基本理念の内容の見直しを検討させていただきたい。

会長 : 見直したほうがいいだろうか。つまり、上位計画である後期基本計画では「観光客のニーズの多様化」がポイントになっている。もう一つ「持続可能な観光」は今までも言っていると思う。観光ビジョンの「目指す姿：物語の磨き上げと再発見による、まちの誇りと観光振興」は持続可能な観光を目指すという考え

方だ。それに対して、「観光客のニーズの多様化」を目指す姿に盛り込むのが適切かどうかという点だと思うが、ご意見いただいた委員、いかがだろうか。

委員：やはり上位計画である以上は、織り込むべきだと感じる。後期基本計画では情報発信もすごく力を入れる項目になっているが、ビジョンの基本理念では少し織り込まれているだけなので…。逆に、観光ビジョンではこのように考えているので、後期基本計画もそれに合わせた形で修正するというのもありかと思う。

会長：例えば、ビジョンの「目指す姿」にニーズの多様化あるいは観光客の多様性という概念を言葉として盛り込むという方向で考えていくべき。ご意見を受けて、このような対応を提案したい。

委員：資料４参考資料の７ページ「基本方針」の見直し案では「広域的な観光事業の展開を図り」と書かれていて、これも観光ビジョンでは織り込んでいなかったことではないかと思う。

会長：第一期ビジョンでは「広域的な観光事業の展開」という概念は確かに盛り込まれていない。これは基本計画の策定段階とビジョン策定段階にずれが生じたからだと理解しているが、広域的な観光事業の展開が必要だというのは実際にやってきた中で明確に表れている点なので、これは盛り込んでいいと思う。次期ビジョンの計画の体系で、基本方針Ⅱの基本戦略④とするかどうか、だろうか。

事務局：今のご意見に関して、現行ビジョンでは「広域的な観光」という表現は無いが、基本戦略に「３．関連組織等との連携推進と支援」があり、「国、県、他自治体、観光関連団体等との連携推進」に触れているので、表現の違いはあるが、後期基本計画の見直し内容に沿った表現を検討したい。

会長：確認だが、次期ビジョンの計画の体系において、基本方針Ⅱの基本戦略④として「広域化を含めた多様な連携を図る」というような考え方を打ち出すということだ。

改めて全体を整理したい。資料１を見ると、一番左側に基本方針ⅠとⅡがあり、その下に基本戦略１・２・３とある。次期ビジョンではこれを少し変更してはどうかというのが事務局からの提案だ。この対応について最終的にチェックしていただきたい。

次期ビジョンの案として、最初に、現行の基本戦略１は「観光資源の磨き上げと再発見」となっているところを、次期案では「自然や歴史文化に触れる観光

の促進」と「市民が地域の賑わいを実感できる観光の再発見」の二つに細分化している。

二つ目は、現行の基本戦略２と３が統合されて「持続可能な観光の推進」というやや曖昧な表現に丸められている。現行と次期ビジョンの基本戦略がそれぞれどう対応しているか、紐付けながら整理する必要があるということが見えてきたと思う。

今日は一度目を通したという段階なので、事務局でより言葉を磨いて、次回はある程度の決定版を出していただきたい。第一期の最終評価については次回、文言を決定する。第二期の骨子も次回、文言を決定する必要がある、骨子に基づいて詳細を作っていくことになる。

意味がよくわからない点や内容がずれている点などが多々あると思うので、委員の皆さんには今日これを持ち帰って読み込んでいただき、事務局にご意見を集約していただきたい。

事務局ではいつまでに意見が集約できるか。１週間程度だろうか。

事務局：１週間で。

会長　：では１週間程度取るので、もう一度熟読いただき、表現の変更や追加・削除など、率直にご意見を寄せていただきたい。要望だが、次回から資料１－１、１－２というふうに枝番をつけてもらえると説明がしやすいので、よろしくお願いしたい。

6. その他

とくになし

7. 閉会

以上